

- 1 青少年教育に関するモデル的事業
  - ア 実践研究事業
  - イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業(特色化事業)
- 2 社会の要請に応える体験活動等事業
  - ウ 防災・減災教育事業



**自然の家ハイパーレスキューチームキャンプ**  
 ～ 災害時に仲間を助ける力を身につけよう ～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家  
 〔期日〕 令和5年 11月3日(金・祝)～5日(日)【2泊3日】  
 〔会場〕 国立諫早青少年自然の家  
 〔参加者〕 小学校4～6年生 23名(体調不良により内1名途中帰宅)  
 〔協力〕 諫早市危機管理課・水道課、諫早市消防団、諫早消防署  
 〔担当職員〕 寺中 拓也、中里 文彦、高山 雄也

1)趣旨

災害時に想定される困難な状況を工夫してチームで解決する活動や避難所を想定した生活体験を通して、災害に対する日々の備えを見直すとともに、災害時に主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成します。

2)SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 防災・減災教育について体験を通して学ぶ機会を提供します。</p> <p>目標11 住み続けられるまちづくりを 災害によってどのような被害が起こり得るかを理解します。</p>
---	--	---

3)目標

○以下の力を身に付けられる研修支援プログラムとしてのパッケージを作る。

- ・ レスキューチームでの活動を通して、共助の精神を養い、防災・減災に興味関心を持つ。
- ・ 避難所生活の模擬体験を通して、災害時でも前向きに力強く生活できる力を身に付ける。
- ・ 災害へ対応するためには、普段どのような備えが必要かについて、自分なりの考えを持つ。
- ・ 災害時や避難所生活に起こる不測の事態に対して、戸惑うことなくその状況に応じて自分自身で判断し行動できる力を身に付ける。
- ・ 他の参加者と協力して課題に立ち向かい、困難な状況を乗り越える力を身に付ける。

#### 4)プログラム

1日目	2日目	3日目
10:30 入所式等 11:00 アイスブレイク 持参物品確認 【写真①】 12:00 防災クイズラリー 【写真②】、弁当 16:00 大地震発生、 避難所準備【写真③】 夕食（防災食） 21:30 就寝	7:00 起床、朝食（防災食） 9:30 レスキューチーム体験 （消火訓練、応急手当） 【写真④】 12:30 昼食（防災食） 13:45 レスキューチーム体験 （ロープワーク） 15:30 シャワー 16:30 夕食（防災食） 【写真⑤】 20:00 ふりかえり、星空観察 21:30 就寝	6:30 起床、荷物整理等 朝食（防災食） 避難所の撤収 10:00 移動 10:30 3日間のふりかえり 12:00 昼食（レストラン） 13:00 ふりかえり発表 【写真⑥】 14:00 閉会式

#### 5)事業展開

##### ①持参物品確認



今回のキャンプでは、電気やガス、水道が使えない避難所で3日間生活するために必要な物を、自分で考えて準備してくるよう事前に案内しました。

活動班毎に、お互い何を持ってきたか紹介し、一覧表を作成しました。

##### ②防災クイズラリー



「火を使っている時に地震が起きたら?」「避難所へ移動する際の服装は?」等、防災に関するクイズを班のメンバーで考えながら解いていきました。

無事正解を見つけ出し、目的地であるキャンプ村へ到着することができました。

##### ③避難所準備



大地震が発生したという想定の下、翌日の昼に救助隊が到着するまで、お互い助け合って生活するよう後藤次長からビデオ電話で指示がありました。

備蓄品を活用しながら、寝床や夕食の準備等、協力して動いていました。

##### ④レスキューチーム体験



災害時に想定される火災や怪我への対応方法について学びました。

普段から火災、救助現場で活躍する消防署員、消防団員の本格的な指導により、実践的な体験ができました。

### ⑤2日目夕食（防災食）



救助物品で届けられた道具を使用し、パッククッキング(湯せん調理)でカレーを作りました。

初めてのパッククッキングに戸惑いながらも、おいしく作ることができ、災害時に役立つ調理方法を学ぶことができました。

### ⑥ふりかえり発表



3日間の体験を踏まえ、「避難所で楽しく生活するために大切なことは？」「明日地震が起こるとしたら、今から何をやる？」など、ハイパーレスキューチームの一員として自分ができることを考え、発表しました。一人一人の異なる考えをシェアすることができました。

## 6) 評価

### ①アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
86%	14%	0%	0%

### ②参加者の声

- ・ 水はとても大切だと思った。また、災害時は、人と協力することが大事だと思った。
- ・ 今当たり前のようなことが、災害時は当たり前じゃないと気付くことができた。
- ・ 防災のことをあまり知らなかったけど、今は分かるようになった。
- ・ 避難所は、みんなで助け合ったりしないと楽しい生活はできない。
- ・ 人命救助に興味を持った。
- ・ 今後防災バックを見直そうと思った。

## 7) 成果と課題

### ①成果

- ・ 電気、水道、ガスがない生活を再現することができるキャンプ村での避難所体験を、3日間通して実施することができた。水洗トイレが使用できない状況や、夕方以降は真っ暗になる状況等、普段体験できない環境で過ごすことで、災害時の様子を疑似的に理解することができた。
- ・ 消防署員、消防団員に本格的な指導をしていただくことで、必要な知識や技術を正しく学ぶとともに、自分たちで考えながら避難所生活を送ることで、自主的に考え行動する力を身に付けることができた。

### ②課題

- ・ 災害時の実際の避難所は、今回の体験以上に緊張感がある環境となる。キャンプを通して楽しく防災・減災を学ぶことと、実際の被災時の緊張感を理解することのバランスを考えながらプログラムを検討する必要がある。
- ・ 本事業で実施しているアンケート調査の結果を分析し、研修支援プログラムとして利用団体へ提供するためのパッケージ作成に反映させる必要がある。